

法政大学人間環境学部
教授 長谷川 直哉

受賞・表彰内容について

1. 受賞内容 環境経営学会 学会賞 (学術貢献賞)
2. 受賞年月 2017年5月28日 (於: 環境経営学会 2018年度研究報告大会)
3. 受賞対象 長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史—CSR経営の先駆者に学ぶ』(2016年3月刊, 文眞堂)

4. 執筆者

長谷川直哉 法政大学人間環境学部 教授 (序章、第1章、第2章、第6章)
 島津淳子 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター客員研究員 (第3章)
 生島淳 高知工科大学マネジメント学部兼任講師 (第4章) (現在は同大准教授)
 堀峰生 一橋大学大学院商学研究科特任講師 (第5章) (現在は新潟経営大学学長)

5. 本書の概要

本書は、2014年10月～12月に実施された本学イノベーション・マネジメント研究センター主催による公開講座「企業家活動でたどるサステイナブル経営史—CSR経営の先駆者に学ぶ」の講義にもとづいて編集したものである。本書は現代のCSRやサステイナブル経営を先取りし、経済と道徳を統合したミッションを実践した日本の企業家と思想家を紹介し、その意義を明らかにすることを目的としている。本書の構成は以下の通りである。

序章「CSR経営の先駆者に学ぶ」

第1部「社会的責任の萌芽」

第1章「財本徳末思想：経済と道徳の統合を目指して—岡田良一郎 (大日本報徳社)」
 道徳と経済の融合を説く財本徳末思想を通じ浜松地方の企業家の理念的支柱となった。

第2章「価値共創経営の先駆者」(長谷川直哉)

「自利利他公私一如」という経営理念の下で、別子銅山の煙害問題の根本解決を主導し、その経営はわが国CSRの嚆矢と評価される。

第2部「経営理念と社会的責任」

第3章「産業発展を見据えた理念経営—高碓達之助 (東洋製罐)」

需要先あるいは消費者に対する奉仕の精神と利益は目的ではなく結果であると唱えた。

第4章「キリスト教倫理と商業道徳—相馬愛蔵 (新宿中村屋)」

典型的なプロテスタントとして能動的な禁欲的人生観に基づく経営を実践。

第3部「社会貢献とビジネスの融合を目指して」

第5章「社会貢献の経営思想とその実践—米山梅吉 (三井信託銀行)—」

ロータリー・クラブ活動等を通じて日本の企業風土に社会貢献活動の文化を醸成。

第6章「スチュワードシップに基づく相互扶助の社会経済システムの構築を目指して—ウィリアム・メレル・ヴォーリズ (近江兄弟社)」

スチュワードシップによる企業経営と地域社会のサステナビリティの実現を目指す。

6. 学術的意義

本書は明治～昭和期の日本企業の中に、日本の思想、文化、価値観に根差したサステナビリティ経営を実践した企業家が存在していたことを明らかにした。また、本書で取り上げた事例は、現代企業がSDGsを踏まえたサステナビリティ経営を追求する上で、貴重な示唆を与えるものであると確信している。

以上